

#### 4 減少に転じた鉱工業生産

本県の鉱工業生産は、2002年から海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられ、03年後半に回復基調となった。04年以降、生産は緩やかな増加傾向を続け、06年からは、新興国などの経済拡大に伴う輸出増加にけん引され、生産はさらに増加したが、07年に入ると高水準を維持しながら伸びは鈍化し始め、08年後半には、減少に転じた。その後、9月のリーマンショックを契機に輸出が急激に減少し、国内需要の減少も相まって、戦後類のない急速かつ大幅な減少を記録した。

注  
(7年ぶりに下回った生産指数)

08年の鉱工業生産指数は105.7で前年比5.0%減となり、7年ぶりに前年を下回った。愛知県鉱工業指数の業種分類に基づく業種別にみると、全22業種中、輸送機械工業、一般機械工業、電子部品・デバイス工業など20業種で低下し、精密機械工業、家具工業の2業種が上昇した(図表4-1)。

注：旧基準の数値を2005年基準に接続した分(2002年以前)を含む。

図表4-1 2008年の業種別生産指数(愛知県)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	105.7	-5.0	-5.0
鉄鋼業	646.2	101.3	-2.4	-0.145
非鉄金属工業	139.1	99.0	-5.7	-0.075
金属製品工業	352.7	98.4	-1.4	-0.044
一般機械工業	1207.4	95.2	-6.6	-0.727
電気機械工業	456.6	107.0	-3.7	-0.168
情報通信機械工業	182.7	125.3	-7.9	-0.176
電子部品・デバイス工業	262.1	105.7	-11.0	-0.308
輸送機械工業	4549.8	112.1	-6.1	-2.984
精密機械工業	33.2	123.9	3.3	0.012
窯業・土石製品工業	352.6	101.8	-3.4	-0.114
化学工業	267.9	95.3	-0.7	-0.017
石油・石炭製品工業	33.6	98.8	-6.4	-0.020
プラスチック製品工業	463.2	106.3	-1.1	-0.050
パルプ・紙・紙加工品工業	84.4	96.9	-4.5	-0.035
繊維工業	149.3	85.8	-9.1	-0.115
食料品工業	400.6	93.7	-0.8	-0.029
ゴム製品工業	166.0	109.7	-1.9	-0.031
家具工業	89.2	96.4	1.4	0.010
印刷業	113.8	93.5	-1.5	-0.014
木材・木製品工業	31.8	89.9	-0.1	0.000
その他製品工業	14.5	92.6	-7.5	-0.010
鉱業	3.3	71.9	-18.8	-0.005

注：ウェイトは付加価値額ウェイト  
資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

#### (全国と本県の状況)

本県と全国における鉱工業生産に占める業種別のウェイト(2005年基準)を見ると、本県では、輸送機械工業が45.5%と他の業種を抜き出て高く、これに次ぐ一般機械工業が12.1%と、この2業種だけで全体の60%近くを占めている。特に輸送機械工業は、本県の鉱工業全体における影響力を年々強めている。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は1.8%、電子部品・デバイス工業は2.6%と2業種併せても4.4%であり、IT産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表4-2 2008年の業種別生産指数(全国)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	103.8	-3.4	-3.4
鉄鋼業	599.7	103.7	-2.1	-0.123
非鉄金属工業	211.7	99.0	-5.2	-0.106
金属製品工業	566.8	94.8	-2.1	-0.106
一般機械工業	1318.2	100.4	-8.1	-1.080
電気機械工業	607.3	100.4	-2.7	-0.158
情報通信機械工業	433.4	103.2	-4.8	-0.210
電子部品・デバイス工業	799.3	126.3	-3.6	-0.350
輸送機械工業	1685.8	110.5	-1.3	-0.220
精密機械工業	102.0	117.6	2.3	0.026
窯業・土石製品工業	293.0	97.2	-4.7	-0.131
化学工業	1181.3	100.1	-3.7	-0.418
石油・石炭製品工業	99.9	96.0	-1.6	-0.015
プラスチック製品工業	383.7	97.5	-3.8	-0.139
パルプ・紙・紙加工品工業	241.0	99.6	-1.4	-0.031
繊維工業	200.9	82.5	-8.9	-0.152
食料品・たばこ工業	721.2	100.5	0.7	0.047
ゴム製品工業	153.6	103.8	-1.8	-0.027
皮革製品工業	12.3	79.8	-11.8	-0.012
家具工業	85.3	83.4	-13.4	-0.102
印刷業	180.7	107.5	-0.3	-0.005
木材・木製品工業	57.3	83.0	-11.3	-0.057
その他製品工業	44.7	150.6	4.5	0.027
鉱業	20.9	103.1	-3.3	-0.007

注：ウェイトは付加価値額ウェイト  
資料：経済産業省「鉱工業指数年報」

一方、全国では、輸送機械工業が16.9%、一般機械工業が13.2%、合計で約30%となるため、この2業種が占めるウェイトは、本県での割合の約半分となる。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は4.3%、電子部品・デバイス工業は8.0%と2業種併せると12.3%となり、本県での割合の3倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異なる様相がみられることがある。

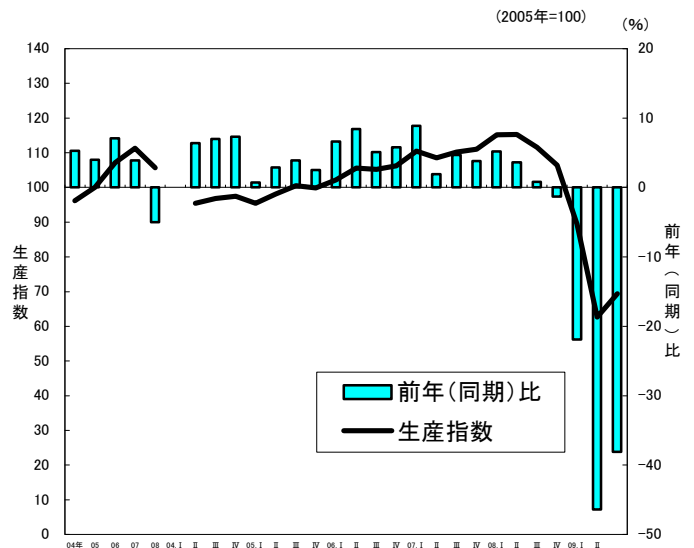
本県の生産指数の動きを四半期別にみると、01年10-12月期を底に徐々に回復し、02年7-9月期には対前年同期比がプラスに転じた。05年は輸送機械を中心に輸出が好調であったことから、前年比4.0%増となった。06年も世界経済の回復にけん引され引き続き好調を維持し、同7.1%増という高い伸びを示した。07年は、高水準を維持しながらも徐々に伸び率が鈍化していったが、年間を通じ増加傾向で、前年比では3.9%増であった。08年にはいると、1-3月期は、前年同月期3.6%増であったが、4-6月期は同0.8%増と微増にとどまり、7-9月は同1.3%減に転じた。リーマンショックの影響が出始めた10-12期は同21.9%減となり、急激に大幅な減少となった。

一方、全国では、04年後半からIT関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速、特に05年7-9月期には前年同期比が0.2%減となるなど低調に推移し、05年は前年比1.3%増と伸びが鈍化した。05年10-12月期から再び勢いを取り戻し、06年は同4.5%増と好調に推移した。07年は、伸びが鈍化したが、同2.8%増と好調を維持した。08年は、本県と同様の動きを示し、1-3月期は前年同月比2.4%増であったが、4-6月期は同0.8%増と微増にとどまり、7-9月期は同1.4%減と前年割れとなり、10-12月期は同14.5%減と大幅な減少となった(図表4-1、4-2、4-3、4-4、4-5)。

図表4-3 生産指数の推移(愛知県・全国)

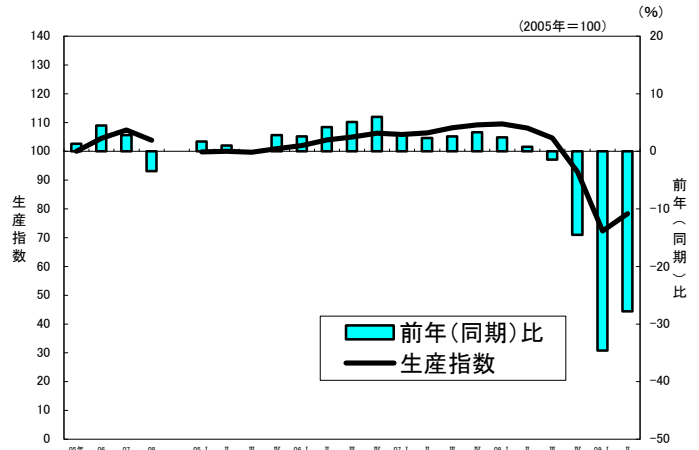
		(2005年=100) (%)			
		愛知県		全国	
	年	指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2007	年間	111.3	3.9	107.4	2.8
	1-3	108.5	1.9	105.8	3.1
	4-6	110.2	4.7	106.4	2.3
	7-9	111.0	3.8	108.2	2.6
	10-12	115.2	5.2	109.2	3.3
2008	年間	105.7	-5.0	103.8	-3.4
	1-3	115.3	3.6	109.5	2.4
	4-6	111.6	0.8	108.1	0.8
	7-9	106.4	-1.3	104.6	-1.4
	10-12	89.4	-21.9	92.8	-14.5
2009	年間	-	-	-	-
	1-3	62.7	-46.4	72.3	-34.6
	4-6	69.4	-38.1	78.3	-27.8

図表4-4 鋳工業生産指数の動き(愛知県)



資料:愛知県統計課「あいちの鋳工業」

図表4-5 鋳工業生産指数の動き(全国)



資料:経済産業省「鋳工業生産・出荷・在庫指数」

### (2年連続で減少した投資財)

本県における08年の生産を財別にみると、生産財、消費財、投資財、全て前年比減となった。

投資財のうち資本財は、これまで好調に推移してきたが、製造業の不振から6年ぶりに減少に転じ前年比5.5%減となった。また、建設財は、国内で公共工事の減少が続いていることに加え、住宅需要も減退していることから同2.2%減と2年連続で減少した。投資財全体では、2年連続の前年割れで、同4.9%減となった

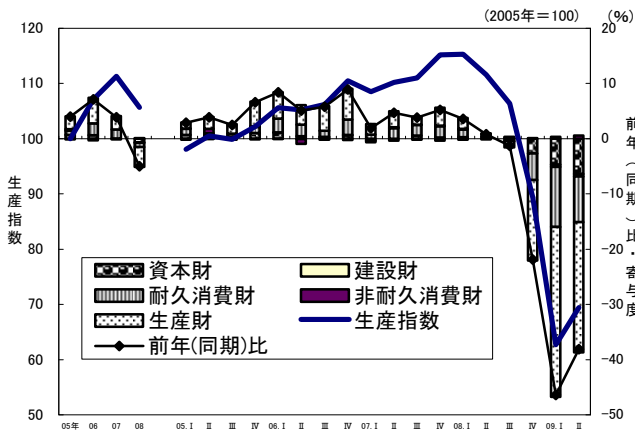
消費財のうち耐久消費財は、乗用車などで年後半

からの海外輸出不振が響き同 3.9%減となり、5年ぶりの減少となった。また、非耐久消費財は、家事用品がやや増加したことから、同 2.6%増と2年連続で増加した。消費財全体では同 2.8%減となり、5年ぶりの減少となった。

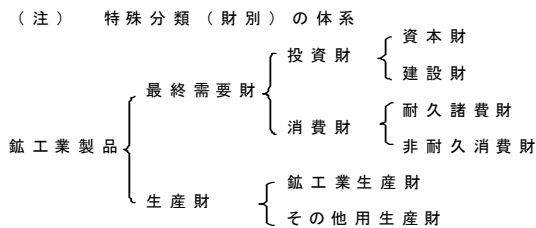
生産財は年後半からの輸出不振に伴う生産の大幅減少の影響を受け、02年以降7年ぶりの減少となる同 5.9%減となった。

このように、08年は、年前半は、前年からの緩やかな景気後退のなかで、ほぼ横ばいの動きをしていたが、年後半から世界経済の後退による急激な輸出の減少を受け、非耐久消費財を除く全ての財で減少した(図表4-6)。

図表4-6 鋳工業生産 財別寄与度の推移



資料: 愛知県統計課「あいちの鋳工業」



(主要業種の動向)

2008年は、これまで数年にわたって本県経済をけん引してきた主力産業である輸送機械を始めほとんどの業種で前年の実績を下回った。

本県の鋳工業生産の中で際立ってウェイトの高い輸送機械は、輸出依存度が高い業種であったことから、リーマンショック後の世界的な景気後退の影響

を最も強く受けて、輸送機械の寄与度は、08年の対前年増減率 5.0%減のうち 3.0%減分を担った。これを寄与率にすると 59.7%を占めることになり、本県鋳工業生産の減少の半ば以上が輸送機械によるものとなっている(図表4-1)。

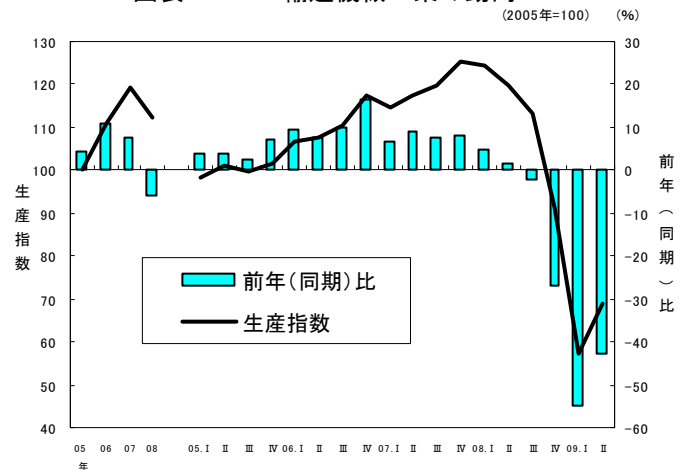
(輸送機械工業)

本県の基幹産業である輸送機械の 2008年の生産指数は 112.1 で、前年比 6.1%減となり、7年ぶりに低下した。これは年後半からの急激な輸出不振による在庫調整のための減産で、自動車と同 4.5%減、自動車部品が同 7.3%減となったことなどによる。

08年の1年間の生産指数の動きをみると、年初をピークに緩やかな減少傾向で推移していたが、10月以降、急激に減少した。

輸送機械工業の中で 32.5%のウェイトを占める乗用車の需要の動きをみると、01年以降05年までほぼ横ばいで推移していた国内の乗用車販売(軽乗用車を含む)は、08年は前年比 5.3%減と4年連続で減少した。こうした中、名古屋税関管内の乗用車の輸出も同 11.6%減となるなど、海外需要も年後半から急速に減少したことから国内生産は減少した。また、60.3%のウェイトを占める自動車部品も、乗用車と同様、年後半からの国内外での自動車需要減退を背景に、生産は減少した(図表4-7)。

図表4-7 輸送機械工業の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鋳工業」

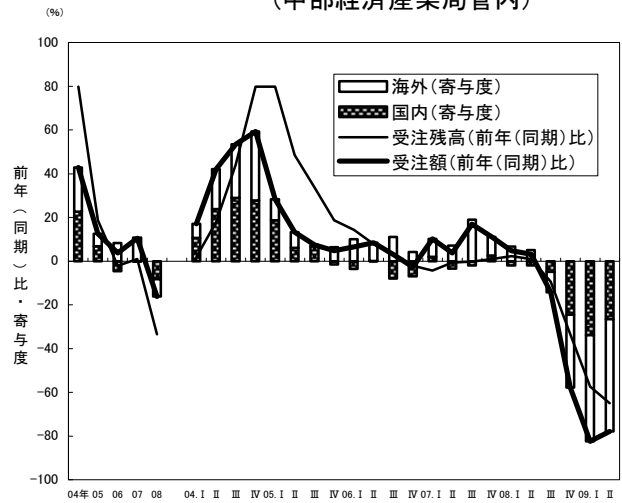
(一般機械工業)

2008年の一般機械の生産指数は 95.2 で、前年比 6.6%減となり、2年連続で低下した。これは、03

年以降増加が続いていた国内の設備投資が 06 年からかげりが出始めて、07 年には輸出も伸び悩んでいた中、08 年後半からは、国内、海外ともに設備投資を縮小する動きがでて、前年好調だった繊維機械が 32.6%減と大きく減少したほか、産業用ロボットが 13.3%減と 2 年連続の減少、運搬機械が 2.1%減と 3 年連続で減少したことなどによる。

中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で中部地方の金属工作機械メーカー主要 8 社の受注状況をみると、国内受注は 3 年連続で減少して前年比 21.5%減となった。海外受注は、これまで好調を維持してきたが金融危機の影響が世界規模で広がったため、北米向けが同 26.0%減と 2 年連続で減少、EU向けが同 6.7%減と 5 年ぶりに減少した。また、前年はオリンピック需要で中国向けが増加したアジア向けでも 12.2%減と 2 年ぶりに減少し、海外受注合計では 12.9%減となった(図表 4-8、4-9)。

図表 4-9 金属工作機械の受注動向  
(中部経済産業局管内)

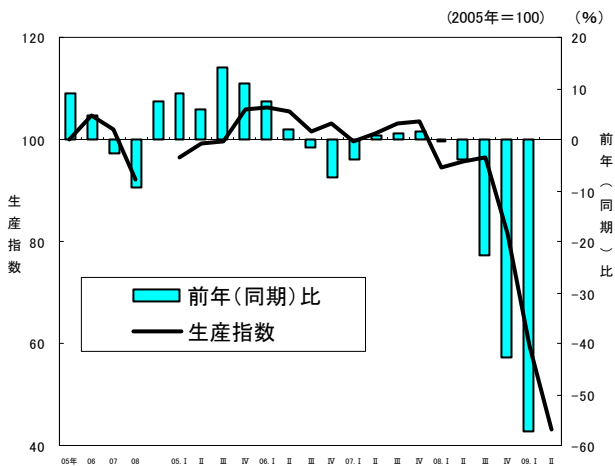


資料: 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

(鉄鋼業)

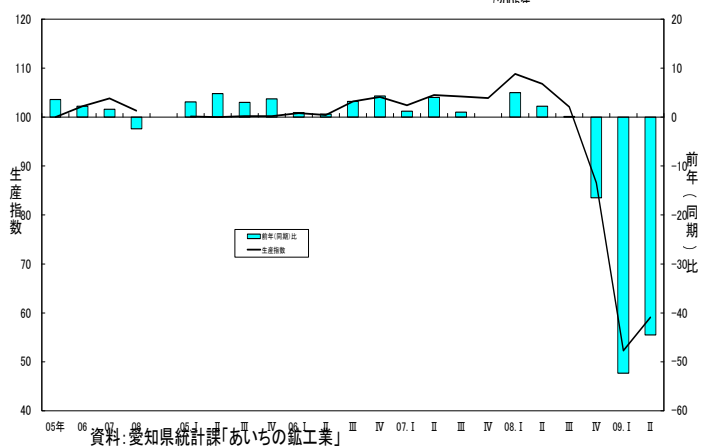
2008 年の鉄鋼業の生産指数は 101.3 で前年比 2.4%減となり、7 年ぶりに低下した。これは主に輸送機械向けや産業機械向けなどが不調であったことを受け、鋳鍛造品が同 6.3%減、冷間仕上鋼材が同 4.9%減となったことなどによる(図表 4-10)。

図表 4-8 一般機械工業の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表 4-10 鉄鋼業の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」